

科目担当者氏名		科目担当者連絡先 (メールアドレス)
(ふりがな)	いわぶち あきこ 岩渕 亜希子	
連絡責任者氏名		科目設置機関名
(ふりがな)	いわぶち あきこ 岩渕 亜希子	追手門学院大学
授業科目名	科目認定番号	受講者数
社会調査実習ⅡA	OTMa-080702-2	25

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：学生が果たした役割：学内調査という所与の条件のもとでの仮説立案・調査票作成、エディティングおよびデータ入力、集計票の作成、分析、執筆。感想：本実習では、実習全体の調査枠組みのもとで、学生が自らの関心を互いに表明し、それを活かしてグループごとのテーマと仮説をまとめあげ、それに沿った調査を行えることを重視しているが、グループワークのマネジメントには困難が多い。

II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：2クラス計25名で計6テーマを設定し1つの調査票を作成した。(複数のテーマにわたる関心を持つ場合は、複数のグループに所属した場合もある。)以下に「服装・ファッション」グループの概要について述べる。(服装・ファッショングループはAクラスのみ)

2. 調査の内容/概要：服装・ファッションが、対人関係における態度や、実際の友人関係の形成に与える影響を調査した。実際に男女各6種類、計12種類のファッション写真(カラー)を提示して、回答を求めた。

3. 調査の範囲/対象(量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：母集団：追手門学院大学の社会学部生1~3年生、サンプリング：有意抽出(1~3年ゼミを通じた配布・回収)

4. 主な調査項目：自分の普段の服装、話しかけやすい服装、親しい友人が着ている服装など

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集(現地調査)の方法：1~3年生ゼミの担当教員に対し、受講生自らが調査依頼の交渉を行った。日程調整のうえ、受講生が分担して調査員となり、ゼミを訪問しての調査説明、配布、回収を行った。自記式。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：調査時期：2008年6月下旬~7月上旬、調査地：追手門学院大学内、調査員の数：学生計50名(うちAクラス25名)

7. 収集したデータの量と質への評価(量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)：総配布数354、回収数：318、有効回収数：同左、配布数に対する有効回収率：89.8%

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：SPSSを用いた統計解析(クロス表分析とカイ2乗検定、平均値の差の検定、相関分析が中心)

9. 調査の成果(調査から得られた主な知見など)：①特定の服装においては、同様の服装の友人が多い傾向が見られた、②話しかけやすい相手としては、自分と同じ種類の服装の人というよりも、特定の(人気のある)服装をしている人を選ぶ傾向が見られた、③「地味な服か派手な服か」という基準で見れば、地味な服装の人は地味な服装の友人を、派手な服装の人は派手な服装の友人を持っている傾向が見られた。ほか

10. 報告書刊行の予定と概要：2009年3月に『追手門学院大学社会学部 社会調査実習報告書「2008年度 大学生の社会意識に関するアンケート」調査報告書——追手門学院大学 学部生の暮らしと意識』刊行。服装・ファッションに関する論文5本を掲載。

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部の*印の箇所には数字を(「*/」には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3と)ご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。

科目担当者氏名		科目担当者連絡先 (メールアドレス)	
(ふりがな)	いわぶち あきこ 岩淵 亜希子		
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな)	いわぶち あきこ 岩淵 亜希子	追手門学院大学	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習ⅡA	OTMa-080702-2	25	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：学生が果たした役割：学内調査という所与の条件のもとでの仮説立案・調査票作成、エディティングおよびデータ入力、集計票の作成、分析、執筆。感想：本実習では、実習全体の調査枠組みのもとで、学生が自らの関心を互いに表明し、それを活かしてグループごとのテーマと仮説をまとめあげ、それに沿った調査を行えることを重視しているが、グループワークのマネジメントには困難が多い。

II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：2クラス計25名で計6テーマを設定し1つの調査票を作成した。(複数のテーマにわたる関心を持つ場合は、複数のグループに所属した場合もある。)以下に「大学生生活」グループの概要について述べる。

2. 調査の内容/概要：大学生生活の満足度や出席率が何によって異なるのか、またそれが男女でどのように異なるのか調査した。

3. 調査の範囲/対象 (量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：母集団：追手門学院大学の社会学部生1~3年生、サンプリング：有意抽出 (1~3年ゼミを通じた配布・回収)

4. 主な調査項目：大学生生活の満足度、大学での出席率、ノートの貸し借りなどの人間関係、大学生生活の各場面をどのような友人と過ごしているか など

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集 (現地調査) の方法：1~3年生ゼミの担当教員に対し、受講生自らが調査依頼の交渉を行った。日程調整のうえ、受講生が分担して調査員となり、ゼミを訪問しての調査説明、配布、回収を行った。自記式。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：調査時期：2008年6月下旬~7月上旬、調査地：追手門学院大学内、調査員の数：学生計50名 (うちAクラス25名)

7. 収集したデータの量と質への評価 (量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)：総配布数354、回収数：318、有効回収数：同左、配布数に対する有効回収率：89.8%

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：SPSSを用いた統計解析 (クロス表分析とカイ2乗検定、平均値の差の検定、相関分析が中心)

9. 調査の成果 (調査から得られた主な知見など)：①内向的な性格の学生ほど、友人数が少なく、また大学生生活に満足できていない傾向がある、②男性の方が一人を好み、女性は大勢の固定した友人と行動する傾向にあるが、そうした行動パターンの違いによって大学生生活への満足度が大きく左右されることはない、③出席率が低い人は、異性の友人が多い など

10. 報告書刊行の予定と概要：2009年3月に『追手門学院大学社会学部 社会調査実習報告書 「2008年度 大学生の社会意識に関するアンケート」 調査報告書——追手門学院大学 学部生の暮らしと意識』刊行。大学生生活に関する論文5本を掲載。

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部の*印の箇所には数字を(「*/」には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3と)ご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
(ふりがな) いわぶち あきこ 岩淵 亜希子			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな) いわぶち あきこ 岩淵 亜希子		追手門学院大学	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習ⅡA	OTMa-080702-2	25	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：学生が果たした役割：学内調査という所与の条件のもとでの仮説立案・調査票作成、エディティングおよびデータ入力、集計票の作成、分析、執筆。感想：本実習では、実習全体の調査枠組みのもとで、学生が自らの関心を互いに表明し、それを活かしてグループごとのテーマと仮説をまとめあげ、それに沿った調査を行えることを重視しているが、グループワークのマネジメントには困難が多い。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：2クラス計25名で計6テーマを設定し1つの調査票を作成した。（複数のテーマにわたる関心を持つ場合は、複数のグループに所属した場合もある。）以下に「友人関係」グループの概要について述べる。（友人関係グループはAクラスのみ）
2. 調査の内容／概要：友人関係の男女差（異性の友人との付き合い方の差など）、昔からの友人と今の友人との付き合い方の違いについて調査した。
3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：母集団：追手門学院大学の社会学部生1～3年生、サンプリング：有意抽出（1～3年ゼミを通じた配布・回収）
4. 主な調査項目：友人数。異性の友人数。活動内容別友人数。異性の友人数。大学生活、恋愛関係、就職・将来のことなどの各側面での、昔からの友人と今の大学での友人との付き合い方。親しい異性の友人との付き合い方。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：1～3年生ゼミの担当教員に対し、受講生自らが調査依頼の交渉を行った。日程調整のうえ、受講生が分担して調査員となり、ゼミを訪問しての調査説明、配布、回収を行った。自記式。
6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：調査時期：2008年6月下旬～7月上旬、調査地：追手門学院大学内、調査員の数：学生計50名（うちAクラス25名）
7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入）：総配布数354、回収数：318、有効回収数：同左、配布数に対する有効回収率：89.8%

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：SPSSを用いた統計解析（クロス表分析とカイ2乗検定、平均値の差の検定、相関分析が中心）
9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：①昔からの付き合いがある友人の方がさまざまな面で気を使わずに過ごせるが、客観的な意見や新しい意見を言ってもらう際には大学生活における友人の役割が大きい、②多くの人は異性の友人とは一定の距離を保って接しているなか、接触量などでは差がないにもかかわらず、恋愛感情を持ってしまう人は男性に多い。など
10. 報告書刊行の予定と概要：2009年3月に『追手門学院大学社会学部 社会調査実習報告書 「2008年度 大学生の社会意識に関するアンケート」 調査報告書——追手門学院大学 学部生の暮らしと意識』刊行。友人関係に関する論文11本を掲載。

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部の*印の箇所には数字を(*/*)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3と)ご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。

科目担当者氏名		科目担当者連絡先 (メールアドレス)
(ふりがな)	いわぶち あきこ 岩渕 亜希子	
連絡責任者氏名		科目設置機関名
(ふりがな)	いわぶち あきこ 岩渕 亜希子	追手門学院大学
授業科目名	科目認定番号	受講者数
社会調査実習ⅡA	OTMa-080702-2	25

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：学生が果たした役割：学内調査という所与の条件のもとでの仮説立案・調査票作成、エディティングおよびデータ入力、集計票の作成、分析、執筆。感想：本実習では、実習全体の調査枠組みのもとで、学生が自らの関心を互いに表明し、それを活かしてグループごとのテーマと仮説をまとめあげ、それに沿った調査を行えることを重視しているが、グループワークのマネジメントには困難が多い。

II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：2クラス計25名で計6テーマを設定し1つの調査票を作成した。(複数のテーマにわたる関心を持つ場合は、複数のグループに所属した場合もある。)以下に「カワイイ」グループの概要について述べる。(カワイイグループはAクラスのみ)

2. 調査の内容/概要：人々がカワイイという言葉をごどのように使い、またそれに対してどのように感じているのか、またそれらに男女差があるのかを調べた。

3. 調査の範囲/対象 (量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：母集団：追手門学院大学の社会学部生1~3年生、サンプリング：有意抽出 (1~3年ゼミを通じた配布・回収)

4. 主な調査項目：カワイイという言葉が言われた経験。カワイイという言葉を使う対象。カワイイといわれたときにどのように感じるか。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集 (現地調査) の方法：1~3年生ゼミの担当教員に対し、受講生自らが調査依頼の交渉を行った。日程調整のうえ、受講生が分担して調査員となり、ゼミを訪問しての調査説明、配布、回収を行った。自記式。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：調査時期：2008年6月下旬~7月上旬、調査地：追手門学院大学内、調査員の数：学生計50名 (うちAクラス25名)

7. 収集したデータの量と質への評価 (量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)：総配布数354、回収数：318、有効回収数：同左、配布数に対する有効回収率：89.8%

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：SPSSを用いた統計解析 (クロス表分析とカイ2乗検定、平均値の差の検定、相関分析が中心)

9. 調査の成果 (調査から得られた主な知見など)：①カワイイという言葉に対して女性は敏感で、言われれば嬉しい反面素直に受け止められない傾向がある、②男性はカワイイという言葉をおもに人に対して使うが、女性は服やアクセサリなどモノに対しても用いる点で大きな差がある、③一部の男性にとっても、いまやカワイイという言葉はほめ言葉である など

10. 報告書刊行の予定と概要：2009年3月に『追手門学院大学社会学部 社会調査実習報告書 「2008年度 大学生の社会意識に関するアンケート」 調査報告書——追手門学院大学 学部生の暮らしと意識』刊行。カワイイをテーマとする論文5本を掲載。

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部の*印の箇所には数字を(「*/」)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3と)ご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。